

大学生 ノートの取り方

聖隷クリストファー大学 学習支援室

20200706

世界思想社編集部編：「大学生学びのハンドブック」4訂版

世界思想社、2018参照

高校の授業と大学の講義の違い

高 校		大 学
板書中心	授業の進め方	話すこと中心
科目によって学習内容が決められている。 教科書に沿って授業が行われる。	授業と教科書	先生が独自に授業を考え、教科書も指定する。 教科書に沿って授業を行うとは限らない。
大事なポイントは先生が黒板に書いてくれる。	黒板の使い方	使わない先生もいる。 (大事なポイントは先生の「話の中」に潜んでいる)

☑ 大学では 黒板を写すだけではダメ

高校では、「先生が黒板に書いたとおりに」写すことが大切だった。
大学では、先生が黒板を使わない場合もある。先生の話聞きながら「自分でポイントを見つけて」書き留めることが必要。

大学生 ノートの取り方の基本

☑講義内容が思い出せるように：

先生の話の内容をその場で大まかに理解し、ポイントを書き留めておく。
あとで見返したときに、その講義の内容が思い出せるようなノートが理想的。
プリントがある場合：プリントに書き足してノートを作る

☑ノートの完成は講義のあとで：

先生の話全てを書き留めようとする、書くことに気を取られて理解がおろそかになり、良いノートにならない。あとでも調べられることは、とりあえずスペースを空けておいて、講義後に復習しながらノートを完成させると良い。

☑試験にも役立つノート作りを：

試験では講義の要点について問われる。大学の授業は教科書に沿って行われるとは限らないので、ノートだけが頼りになることもある。
先生が強調していたことを思い出せるようなノート作りを心掛ける。

*ノートテイキングの実際については：

「大学生学びのハンドブック」 p.14-19を参照しよう